

公益財団法人千里リサイクルプラザ平成29年第5回理事会議事録

1. 開催日時 平成29年11月14日(火) 午後1時00分から同2時20分まで
2. 開催場所 吹田商工会議所会館 2階 第1会議室
3. 理事現在数 9名
4. 理事定足数 5名
5. 出席理事数 8名
西川 俊孝 門脇 則子 山口 耕右 梶谷 尚義 小南 康隆
三田 和司 柴田 仁 土屋 正春
6. 欠席理事 安田 博明
7. 出席監事 中川 孝基 藤原 忠
8. 会議の目的事項
決議事項 第9号議案 公益財団法人千里リサイクルプラザ会員規約の一部改正の件
第10号議案 公益財団法人千里リサイクルプラザ印に関する規則の一部改正の件
9. 会議の概要

(1) 議長の確認

冒頭で山中貞志参事が司会となり、本日の議長は定款第37条の規定により西川俊孝理事長が務める旨を報告した。

(2) 定足数の確認

議長は、本日の出席理事数が8名で定足数を満たしており、本日の理事会が有効に成立していることを報告した。

(3) 議案の審議状況及び議決結果

議案に先立ち、山中参事が本年5月24日付で就任された柴田仁理事及び本年10月6日付で就任された藤原忠監事を紹介した。その後、各議案の説明に続いた。

①第9号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ会員規約の一部改正の件」

議長は第9号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、山中貞志参事が次のように説明した。

第9号議案の改正は、当財団会員について、現行、「プラザメイト」の名称を使用しているにも拘らず、会員規約上には「プラザメイト」の名称に関する規定がない為、これを定義する。併せて会費及び会費年度については不十分な記載を改める。さらに会員の期間については規約上に特段の定めが不要な為、関連個所の記載を削除し、退会に関する定めを明確にするものであると説明した。

説明が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ質問及び意見は無かったので採決を諮ったところ、満場一致をもって第9号議案は承認可決された。

②第10号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ印に関する規則の一部改正の件」

議長は第10号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、山中貞志参事が次のように説明した。

第10号議案の改正は、当財団において財団印等を使用した場合、財団印等保管者は決裁済文書又は財団印等押印簿に財団印等済印を押さなければならないが、同印が印規則上に定める様式第6号と様式が異なっており、様式を定める必要性を検討した結果、様式第6号の記載を削除するものであると説明した。

説明が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、柴田理事が内容について確認を求められたので、上川善一郎主幹が現状の財団印等済印使用状況を交えて説明した。他に質問及び意見は無かったので採決を諮ったところ、満場一致をもって第10号議案は承認可決された。

(4) 報告事項

議長が引き続き報告事項の説明をし、代表理事及び代表理事以外の業務執行理事の自己の職務執行状況報告書について事務局から報告した。

1. 平成29年度上半期の事業実施概要について天野美晴主幹及び安田典彦主査が説明した。
2. 平成29年度第2四半期までの決算について中島佳子主査が説明した。
3. 監事監査の状況について、平成29年8月8日に第1四半期監事監査、平成29年11月2日に第2四半期監事監査が行われ、適正な処理の確認を得たと中島佳子主査が報告した。

報告が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質疑応答があった。

(梶谷理事)

3点質問したい。事業報告の中で、各学校の授業、クラブ活動等に出向いて積極的に連携を図ってもらっていることに感謝しており、小さな頃から子どもたちに環境問題への意識付けをすることは意義深いと思っている。1点目は学校の環境学習の支援について、昨年度と比較して広がりという観点ではどういう状況になっているか、また広げていくためにどういう工夫をしているか。2点目は学童保育の支援について、1年から6年の子どもたちの為に放課後に地域の人々を中心に「太陽の広場」という居場所が設けられているが、ここへの働きかけは行われているか。3点目は受託事業の見学ツアーの開催については、どういう観点で見学施設を選択されているのか、本年のキューピー神戸工場と伊丹市昆虫館についてはどのように環境に配慮されているのか聞きたい。

(安田主査)

1点目の環境学習支援については、昨年度まで8校のクラブ活動に支援をしていたが、本年新たに1校の希望があり、9校で実施している。それ以外に、学校から小学校4年生への環境学習支援の依頼ももらっている。これについては、今年4月の始業式当日、プラザの施設見学の説明会に集合いただいた担任の先生方に直接、案内を行った。併せて市の校長会でも案内をした。今年から、吹田市立小学校の4年生がくるくるプラザを施設見学する際、未だ4、5校と数は少ないが、見学後の午後に環境学習の体験教室を受けてもらうことも開始した。2点目の学童保育の支援については、現状、依頼ベースで来館の上、体験教室を受講してもらっていて、「太陽の広場」については、当方からのアプローチはしていない。環境学習支援については市民研究員がチーム単位で出向いているが、現状の人的な制限や許容量を考えると「太陽の広場」までは対応できていない。今後、研究所検討会議でも議論されているように、体制の強化を図って将来に向けた取組みとして考えたい。3点目の見学ツアーについては、キューピー神戸工場は昨年10月に新しく建てられたばかりで、今年5月から見学受付を開始しているが、環境への配慮として、マヨネーズ生産のプロセスで使用しない卵の白味や殻を転用し、資源を無駄にしないよう環境に配慮されている。見学にあたり、事前にそのあたりの説明をってもらうように打合せを行っておいた。見学ツアーについては事務局として、親子での参加、若い世代の参加を希望していたが、申込み開始日は9時開始後、10分程で予約が埋まってしまう人気ぶりだった。親子での参加には環境問題として自然との触れあいも重要であると考えて伊丹市昆虫館も見学対象とした。

(山中参事)

付け加えて、環境学習支援については、毎年6月に校長指導連絡会で説明し活動を紹介している。また今年から企業との連携で、安田主査が中心となって山崎製パン(株)とオリエンタル酵母工業(株)とい

た事業所自らが学校へ出向いてもらい子どもたちに直接指導するという活動も開始している。見学ツアーについては、学校の社会科での見学カリキュラムでは環境施設は実施しにくいことも考慮しながら、見学対象の検討を行っている。

(梶谷理事)

説明を聞き、学校に関するさまざまな活動をいただいていることにお礼を述べたい。限られたスタッフの中ではあるが、「太陽の広場」への対応も是非検討いただき、子どもたちの環境学習の機会を増やしていただきたい。

(小南理事)

吹田市が主催するイベントへの参画で「吹田まつりごみゼロ大作戦」が江坂と南千里で開催され、私自身も参加したが、何を目的として開催されているのかが非常にわかりにくい。例えば、動員された運営委員が弁当の残飯を手で処理していたが、この残飯はその後、どうなったのか。ごみゼロ(運動)大作戦という名称が付いているイベントだから、発生源を抑えるという観点で考えないと、既に出たごみは減らしようがない。ビールの売上が増えれば紙コップが増え、ごみが増えるということではなく、ビールの発売元が回収するというのが基本ではないか。瓶も同じだと思う。地域の夏祭り等でも発生源が回収し、持帰って始末している。この方式でいけばごみの量が無尽蔵に増えることはないと思う。今回の2会場でも出たごみは吹田市が分別して回収するという状況になっている。

以前は3種分別していたものが、今回は動員された委員に任されてしまっていて、ごみゼロ大作戦の意味合いが非常に分かりづらかった。会場の中で、事前にごみの発生源をいかに抑えるかということ、出店する露天商へも徹底理解させる必要がある。私も夏祭りは10年以上に亘って、ごみ当番として参加しているが、今年のごみの処理方法が変更されていてその意図がわからない。イベントの前にごみ減量の施策を皆で考えるべきではないか。

(山中参事)

イベントの中でのごみ減量は長年の課題だが、今のやり方では出たごみの分別収集にとどまっておらず、いかにごみを出さないかという肝心な部分が後回しになっている。多くのイベントで紙トレイ等の紙製品が使われ、使用後に燃焼ゴミとして処理されてしまっているという現状がある。もしすべてのイベント参加者がマイ食器を持参していたら格段にごみ量は減る。ただそれを実現するのは困難で、次善の策としてリユース食器の使用を提案している。しかしリユース食器についても、経費や手間の問題で難しいとの意見をもらっている。これからも各イベントにおいてはごみの発生源を絶つという方向で、プラザとしても協力していきたいと考えている。

(小南理事)

リユース食器は高価で手間も大変だという理由で使いにくいのが、地域イベントで利用できればごみ減量につながると思う。私自身はリユース食器を使用していないが、広く、使用を促していくことが必要だと思う。

(山中参事)

プラザのリユース食器事業については、他市からの利用注文は多いが吹田市内からの注文が減少している。これを踏まえ、今年7月から12月にかけて、吹田市内限定で、価格を半額にしてどれだけ需要が伸びるか限定的な実験をしている。現状では、昨年と比べて増加しつつあるという感触である。

(山口専務理事)

リユース食器を扱っている団体は、近畿に限れば各府県に1ヶ所あるかどうかという状況と聞いている。その中で、プラザの料金は一番低いという状況なので、他市からの注文が来ている。吹田市内では過去に大学で使用してもらった取組み等があったが、現状では減少傾向が続き、由々しき事態と捉えてい

る。この状況に対応するために、山中参事が話した吹田市内及び期間限定の価格引下げの取組みを行っている。根本的には、ごみ問題が分別すればいいという認識になり、そこに留まることで、ごみを減量するところまで及んでいないのが現状である。更なる高い意識を持って取り組みれば、人もお金もかかるが、京都の祇園祭のように、リユース食器を使うことで多数の参加者がいてもごみを何分の一にまで減らすこともできる。

続いて、議長が公益財団法人千里リサイクルプラザ研究所検討会議報告について説明し、研究所検討会議がまとめた「今後10年を見据えた研究所のあり方について 報告書」に基づき、事務局より安田典彦主査が報告した。

報告が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質疑応答があった
(柴田理事)

今回が初めての理事会であるが、しっかりと将来を見据えて計画されているとの印象を持った。実際にプラザ設立以来、市民全体も世代交代をしている中で、地道に学校を回られたりして意識付けがされていることが評価できる。産業フェア等にも商工会議所と連携して取り組んでいただければと思う。

(土屋理事)

柴田理事の商工会議所も積極的に関わっていきたいという発言に感激している。この報告書をまとめるにあたり、私が思っていたのは全国に数あるリサイクルプラザがどこも斜陽になっていて、閉鎖されているところさえある現状で、その理由を考へてみるところから作業は始まったのだが、全国に広まったリサイクルプラザが、後始末がうまくできないまま進んでいる豊かな生活を、どうしていけばいいのかという問題に直面して出来た経緯があり、行政側にとっては分別等を市民に広げるための施設であった。分別で後始末が衛生的に行えるようになると、市民も行政も今後何をするのかという次のステップに上手に進めなくなってしまった。

今は資源を無駄にしている生活という観点から考へるようになった。その為には何をしたらよいかか問われることとなった。資源を無駄にする生活は、生活者自身が考へなければならぬ問題であり、市民の中から集まった人々が活動している研究所がとても重要であり、大きな財産である。ただ残念ながらそれがうまく回っていない現実が一方にある。よってそこに新しいエネルギーを注ぎ込んで、もっと大きなエネルギーを生み出す工夫が必要である。その為にはどうしたらいいのかという議論を進めてきた。問題点として、研究所は一般の市民にとっては敷居が高く入りにくい。研究員という名前は嫌だという意見、企業の人々の参加が出来ていないという意見があった。入り易くすること、入ってくる人を広げるということをうまく実現させたい。そういう観点で、是非、この報告書をお読みいただきご意見を頂戴したい。問題意識は共有できていると思う。資源の無駄についてはグローバルに展開する。例えば、直近3年間の中国の牛肉消費量は9倍に増えている。中国の現況は消費生活の拡大に伴ってプラザが出来た当時の日本の状況と似ている。グローバルな観点からは、この問題は地球単位で共有する問題である。先進国が対応のモデルを提供できるようにしなければならない。

(西川議長)

日本で国の補助を受け一番最初に出来た環境問題啓発施設であるプラザは、全国的に注目される施設ではあるが、吹田市民でさえ知らない人もいる。外部へ向けていろいろな発信が出来ればと考えている。役員の方々のご意見を是非頂戴したい。

(柴田理事)

土屋理事のお話のように、企業は環境問題で注目されることで意識が高く、これに取り組むことでメリットが大きいと考えていたが、長く続いた景気低迷の中でエコアクション他が続かなくなっている。IT

が進んでも会社の紙ごみは却って増える結果もある。こうした点を解決するためには価値観を変えていかなければならない。大会社は消費エネルギーという観点からも報告の義務があり環境への対応を考えなくてはならないが、中小企業にはそうした強制力が及ばず、事業承継等の方が大きな問題となっている。商工会議所にとってもどう取り組んでいくかは大きな問題となっている。なかなか企業にも余裕はないかもしれないが、是非、この報告に企業市民を加えていただき活動を拓げる努力をしていかないといけないと考えている。

(三田理事)

豊中に在住していることもあり、プラザのイベントには家族でよく参加している。プラザがHP等でのPRもしているということで、情報発信をしつつどこまで参加者を増やしていくかということを考える必要があるように思う。他の役員の発言にもあるように、10年先を見据えた計画はとても重要なことであると思う。当社(阪急電鉄株)としても制限はあるが、いろいろと協力していきたい。

(中川監事)

報告書の中に研究所の成果の発信ということが記載されているが、くるくるプラザ本体もそうだが積極的な情報発信が大事であると思う。最近のニュースで若者の間ではインスタ映えという言葉が日常的に使われていると聞いている。難しいかもしれないが、こうしたことも取り入れて創意工夫、独創的な発想で対応を考えてもらいたい。

(藤原監事)

当社(北おおさか信用金庫)としても、できることについて協力していきたい。

以上をもって議案の審議等を終了したので、議長は午後2時20分に閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、定款第39条第2項の規定により、理事長及び監事は記名押印する。

平成29年11月14日

理事長 西川 俊孝

監 事 中川 孝基

監 事 藤原 忠